

令和6年度 栃木県こどもモニター  
第1回アンケート結果  
(保護者)

# 調査実施の概要

## 1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えましょう！

## 2. 第1回アンケート期間

令和6年7月9日（火曜日）から8月5日（月曜日）

## 3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

## 4. モニター数

257名

## 5. 第1回アンケート回答者数

243名

## 6. 第1回アンケート回答率

94.6%

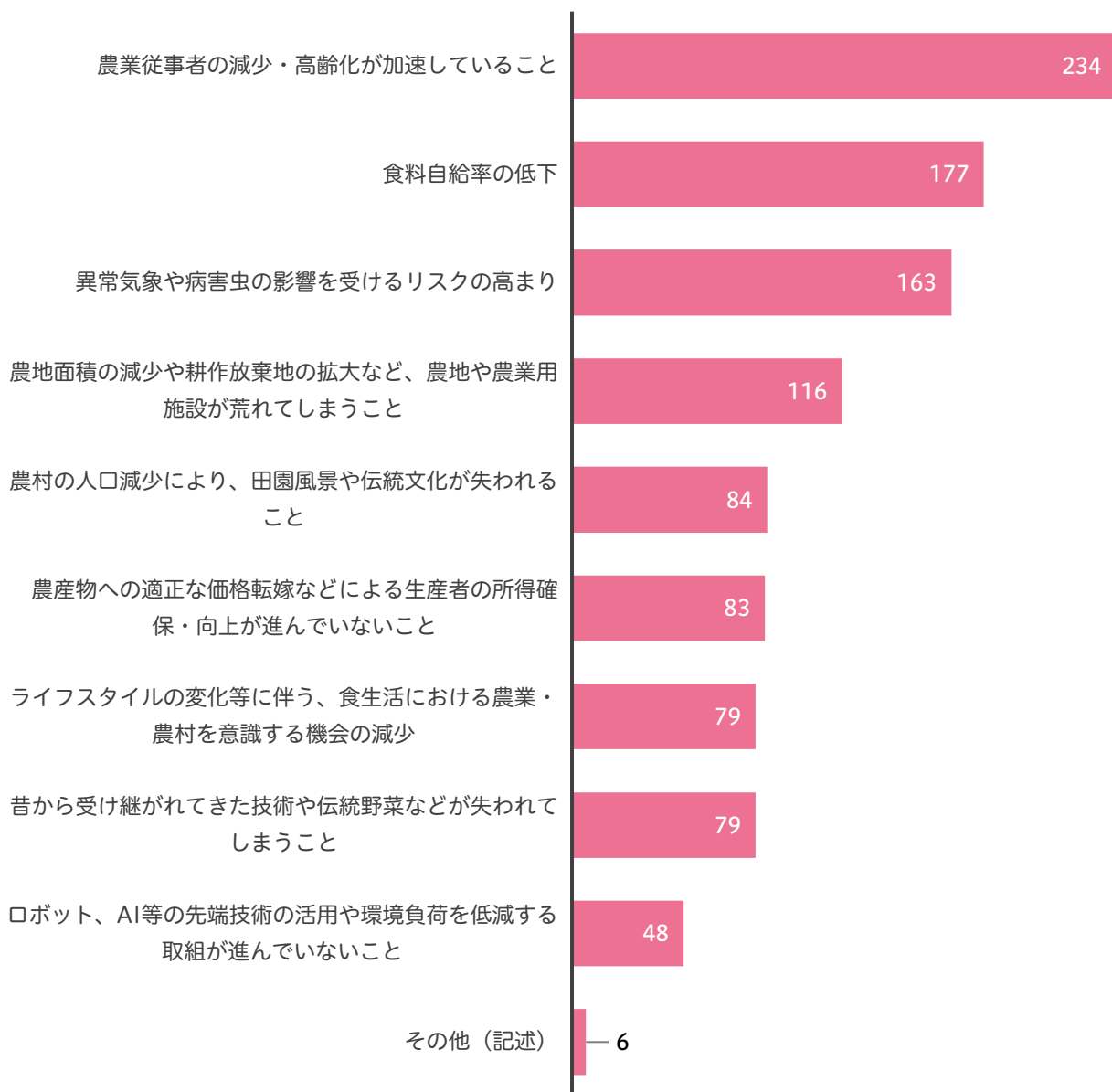
※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男性	25	24	9.9%	96.0%
女性	231	218	89.7%	94.4%
その他	1	1	0.4%	100.0%
合計	257	243	-	94.6%

年齢	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
10代	0	0	0%	0%
20代	15	14	5.8%	93.3%
30代	111	105	43.2%	94.6%
40代	97	93	38.3%	95.9%
50代	34	31	12.8%	91.2%
60代	0	0	0%	0%
70代以上	0	0	0%	0%
合計	257	243	-	94.6%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。  
そのため、合計が100%にならないものがあります。

## Q1.「いまの農業を取りまく課題」のなかで、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



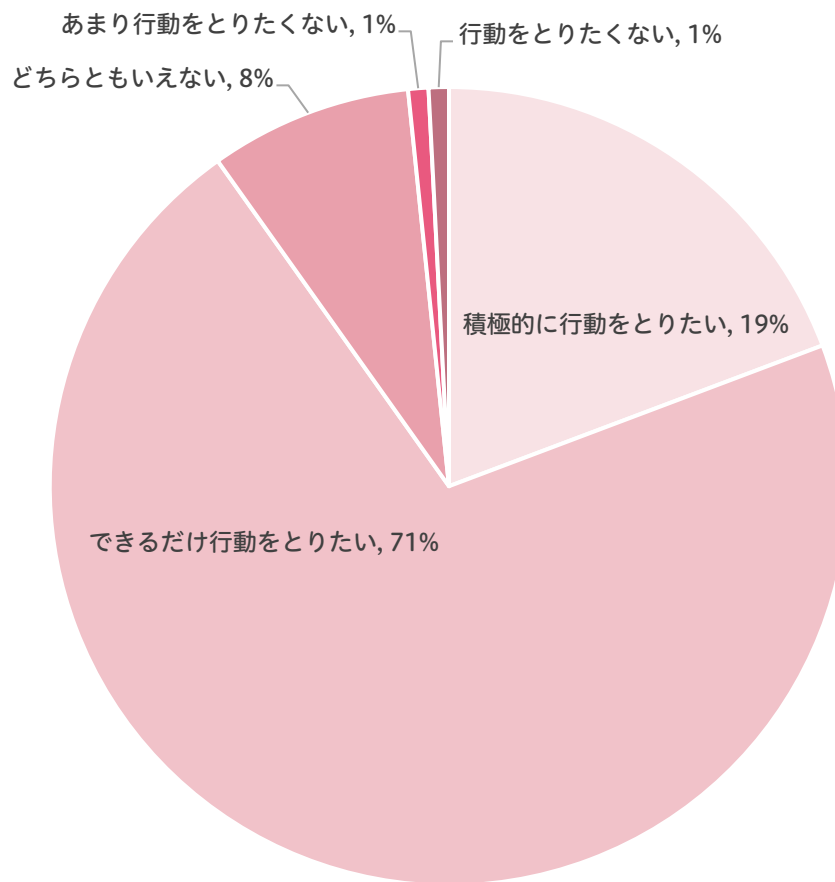
### 【調査結果の概要】

「農業従事者の減少・高齢化が加速していること」(234件)が最も多く、以下、「食料自給率の低下」(177件)、「異常気象や病害虫の影響を受けるリスクの高まり」(163件)などと続いている。

### 【その他の自由記述】

- ・ 売上より経費が多いこと。
- ・ あまり関心がなくそこまで気にしていなかった
- ・ 地のものを食べられないこと農薬使用を前提に農業を行わなくてはならないシステムを構築していること
- ・ 気候が変わって旬の時期がずれたり育たなくなったり高くなったりしていること
- ・ 農薬や肥料の高騰化学肥料の使い過ぎによる環境問題
- ・ 国外輸出がすすまないこと・外国に優良な作物の種が盗まれること・作物の盗難

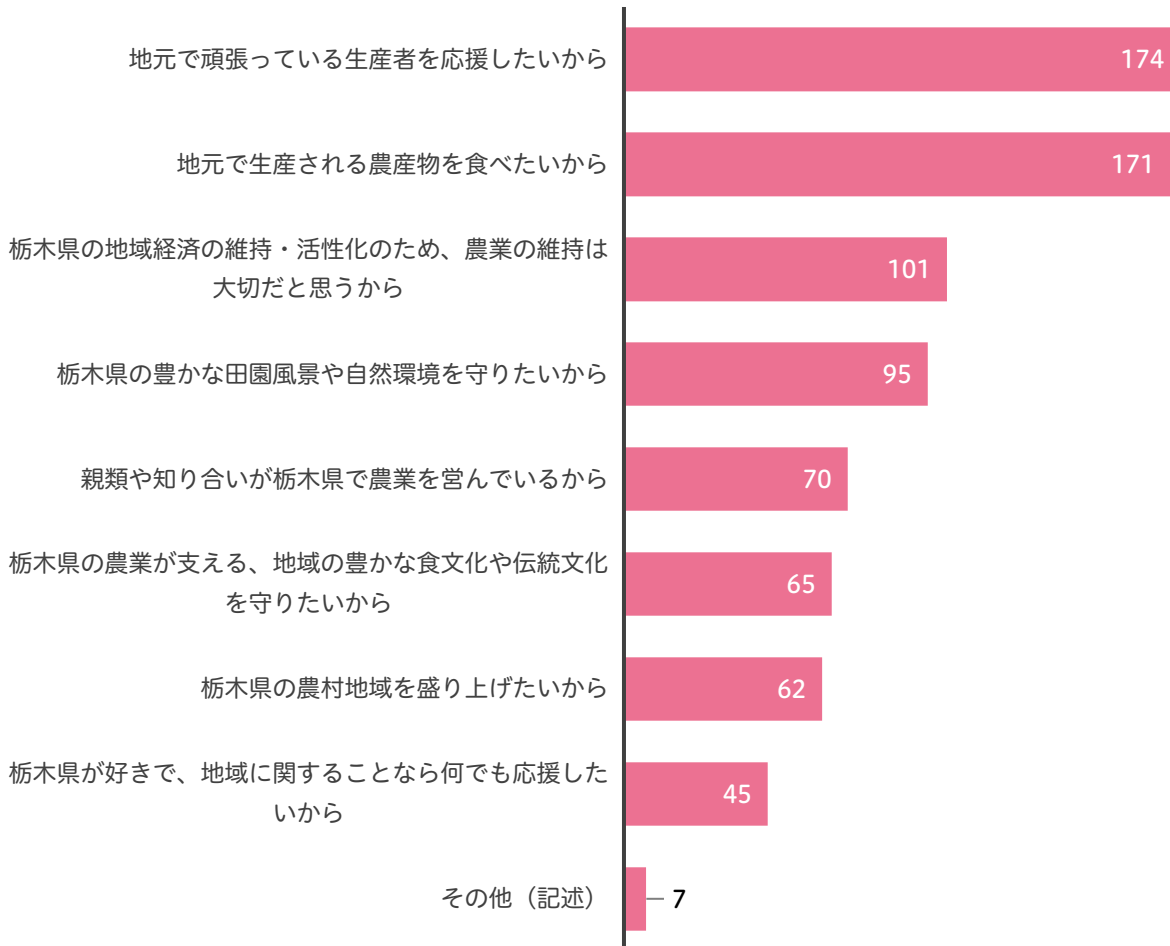
Q2.あなたは「自分も栃木県の農業を応援する行動をとりたい」と思いますか。【ひとつだけ選んでください】



**【調査結果の概要】**

「できるだけ行動をとりたい」(71%)が最も多く、「積極的に行動をとりたい」(19%)が続いており、行動をとりたいと考えているひとは90%である。

**Q3.「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。  
【いくつでも選んでください】**



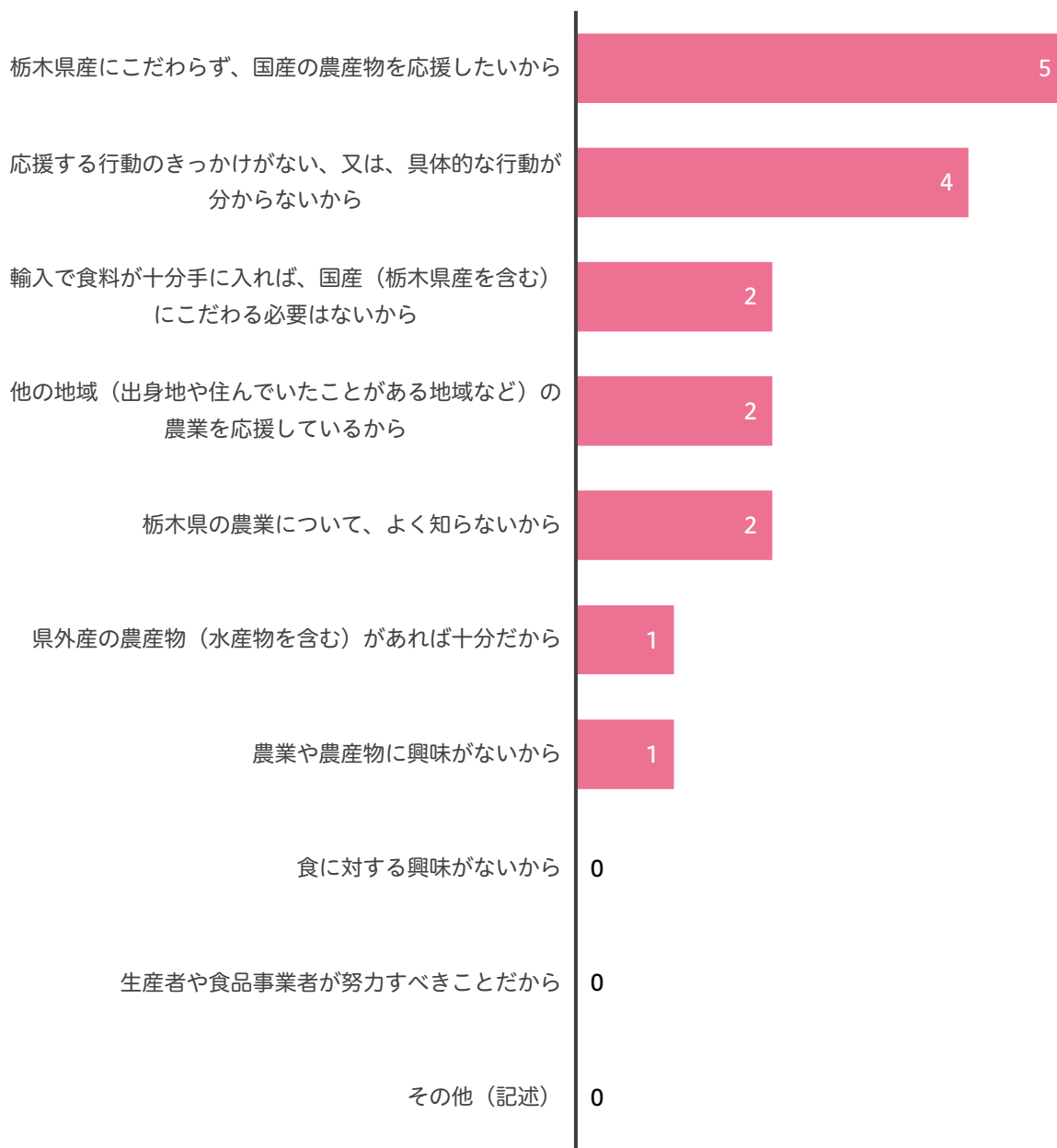
**【調査結果の概要】**

「地元で頑張っている生産者を応援したいから」（174 件）が最も多く、以下、「地元で生産される農産物を食べたいから」（171 件）、「栃木県の地域経済の維持・活性化のため、農業の維持は大切だと思うから」（101 件）などと続いている。

**【その他の自由記述】**

- ・ 自分も農家だから
- ・ 子供が将来の仕事で農業に興味、関心があるから。
- ・ 農薬や化学肥料が気になるから
- ・ 個人で取り組んでいらっしゃる方を支援したいと考えます農薬を使用しなければ団体に入れない仕組みがある中どの様に取り組んでいるのかまた妨げとなる要因について広めて行って欲しい
- ・ 栃木県にこだわらず頑張ってる農家の方を応援したい。
- ・ これからずっと栃木に住む予定であるため何かしたい気持ちはあるが余力はない
- ・ 我が家も高齢の両親が農業を営んでおります。高齢化、価格の適正化など農業は課題がたくさんあります。直ぐにでも取り組まなければならない事案なのに、動こうとしないことにモヤモヤしています。栃木県だけでなく、全国規模で取り組む課題です。
- ・ オーガニック給食に繋がられるよう、有機農家さんを応援したいから

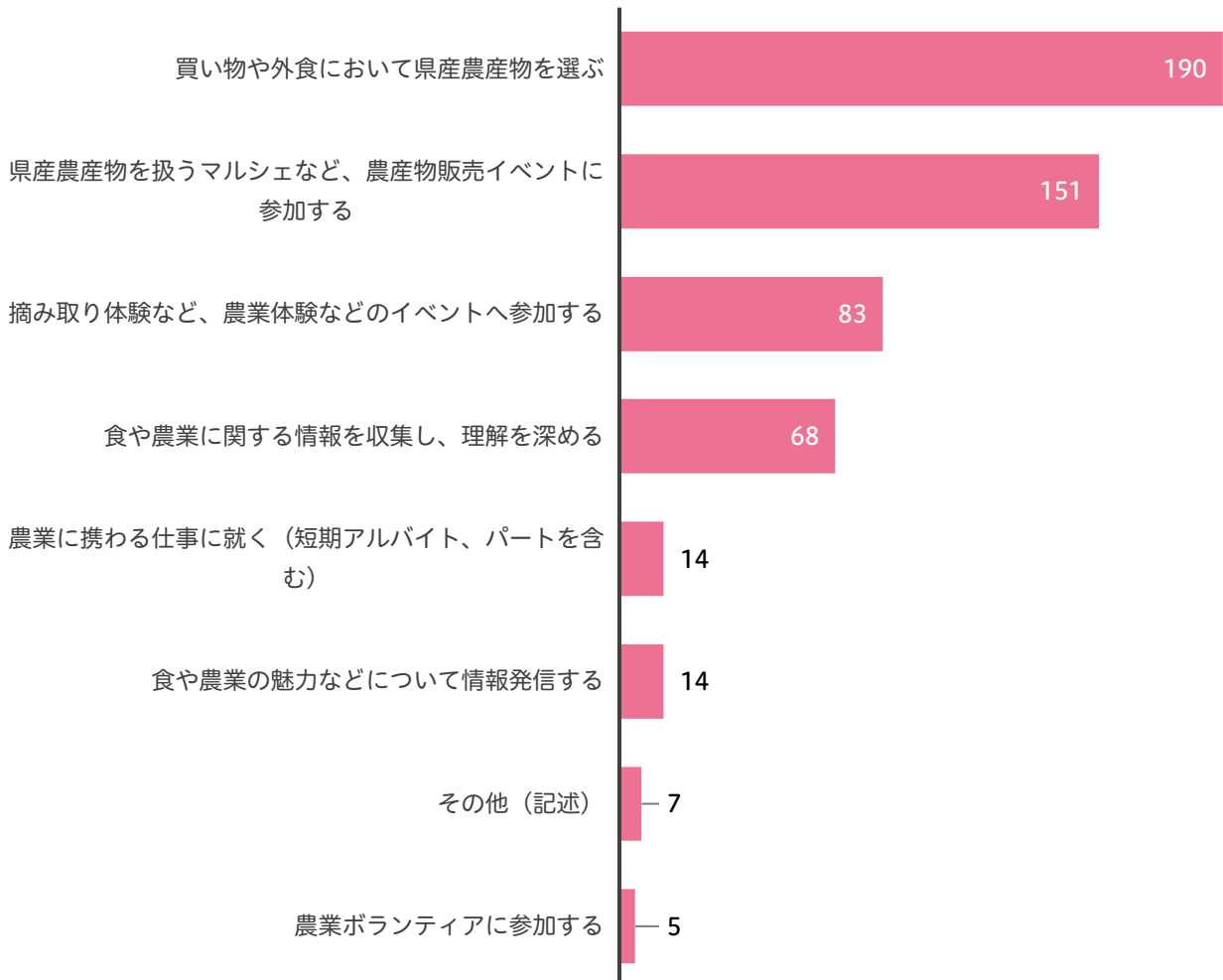
**Q4. 「Q2」で「あまり行動をとりたくない」「行動をとりたくない」を選んだ方にお聞きします。そう思った理由を教えてください。【いくつでも選んでください】**



**【調査結果の概要】**

「栃木県産にこだわらず、国産の農産物を応援したいから」（5件）が最も多く、以下、「応援する行動のきっかけがない、又は、具体的な行動が分からないから」（4件）、「輸入で食料が十分手に入れば、国産（栃木県産を含む）にこだわる必要はないから」（2件）、「他の地域（出身地や住んでいたことがある地域など）の農業を応援しているから」（2件）、「栃木県の農業について、よく知らないから」（2件）などと続いている。

Q5.「Q2」で「積極的に行動をとりたい」「できるだけ行動をとりたい」を選んだ方にお聞きします。こういった行動で応援したいと考えていますか。【3つまで選んでください】



#### 【調査結果の概要】

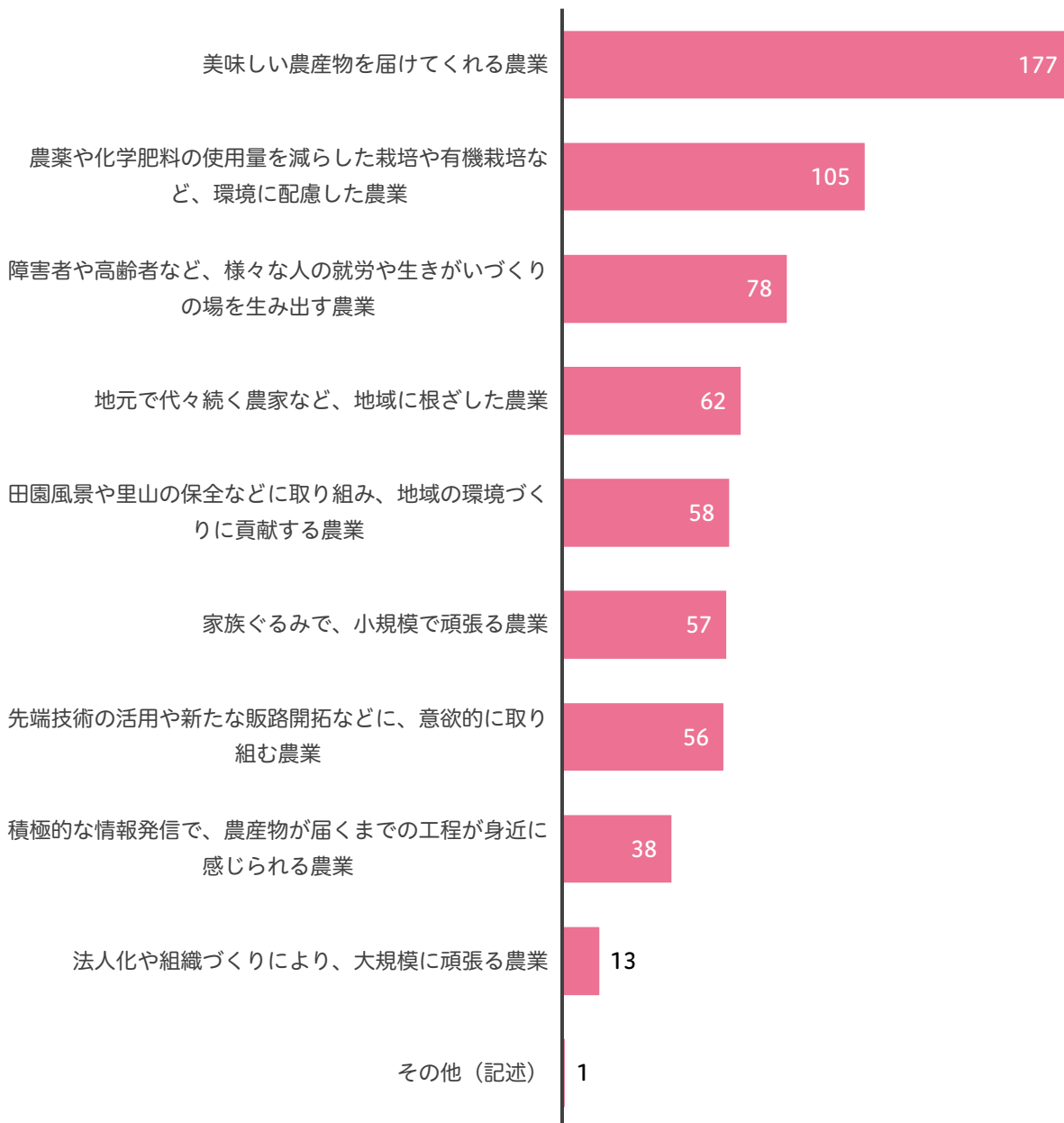
「買い物や外食において県産農産物を選ぶ」（190 件）が最も多く、以下、「県産農産物を扱うマルシェなど、農産物販売イベントに参加する」（151 件）、「摘み取り体験など、農業体験などのイベントへ参加する」（83 件）などと続いている。

#### 【その他の自由記述】

- ・ 県外の親戚や知人に贈答品を購入時には栃木県産果物、カンピョウ、お菓子など選び、美味しいと喜ばれています。
- ・ 野菜を買う際は、道の駅を利用する
- ・ 実家の農家の手伝いをする
- ・ 個人の農家で独自の栽培、販売形態を模索している方々を支援したい
- ・ sns 等で発信している農家さんから直接商品を購入。
- ・ 環境負荷のかからない農業のあり方を、周りの人にも知ってもらえるよう伝える学校でも学べるような環境作りを行政や各学校にお願い消費者の意識の変化に繋がるような情報発信
- ・ 農業関連の企業に投資



## Q6.あなたが応援したいと思う農業は、どんな農業ですか。【3つまで選んでください】



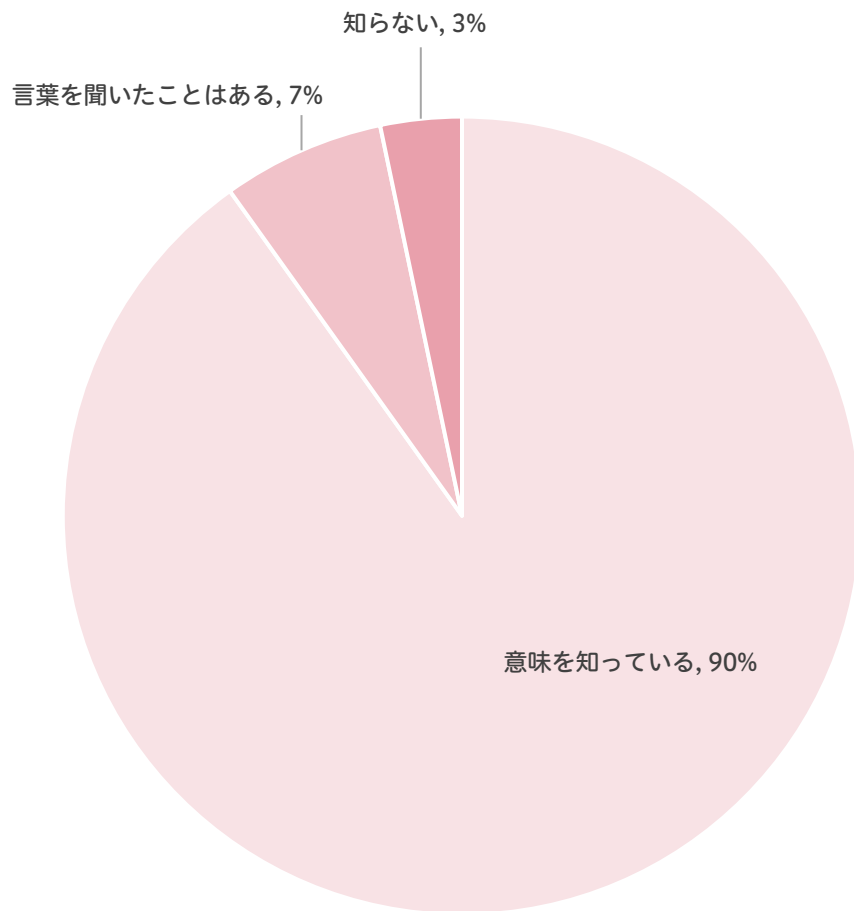
### 【調査結果の概要】

「美味しい農産物を届けてくれる農業」（177 件）が最も多く、以下、「農薬や化学肥料の使用量を減らした栽培や有機栽培など、環境に配慮した農業」（105 件）、「障害者や高齢者など、様々な人の就労や生きがいづくりの場を生み出す農業」（78 件）などと続いている。

### 【その他の自由記述】

- ・ 地元の子供達の給食へ使ってもらえるような、安心な農産物を育てる農業生産者さんから給食へ、そして子供達から大人へ、未来の農業者が増えるような食育活動も兼ねた農業

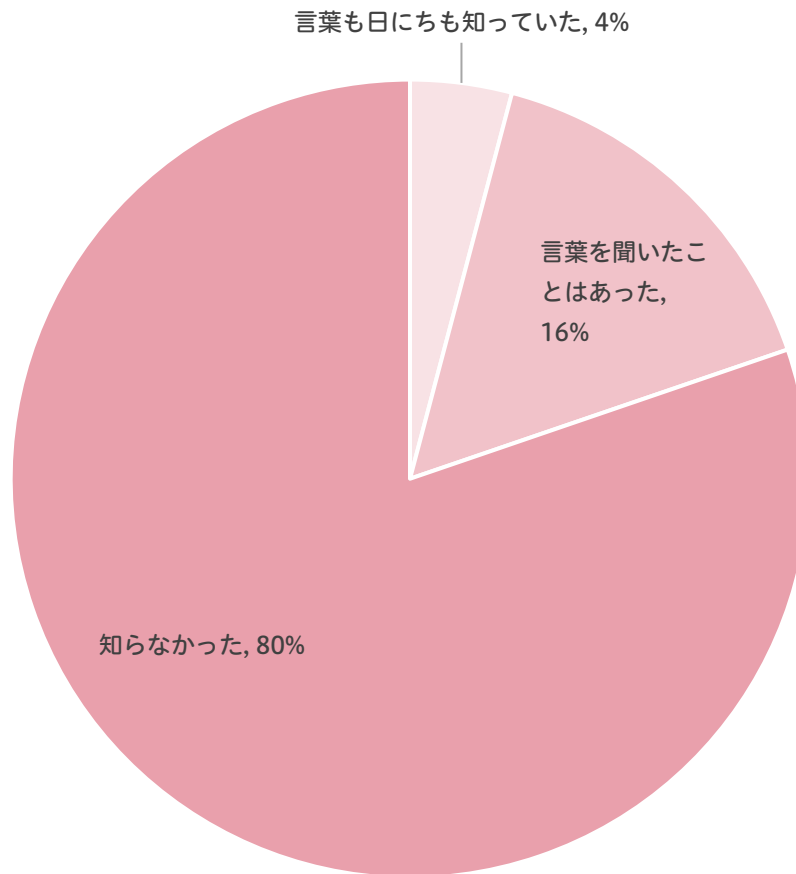
Q7.「地産地消」という言葉の意味を知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



【調査結果の概要】

「意味を知っている」(90%)が最も多く、以下、「言葉を聞いたことはある」(7%)、「知らない」(3%)と続いている。

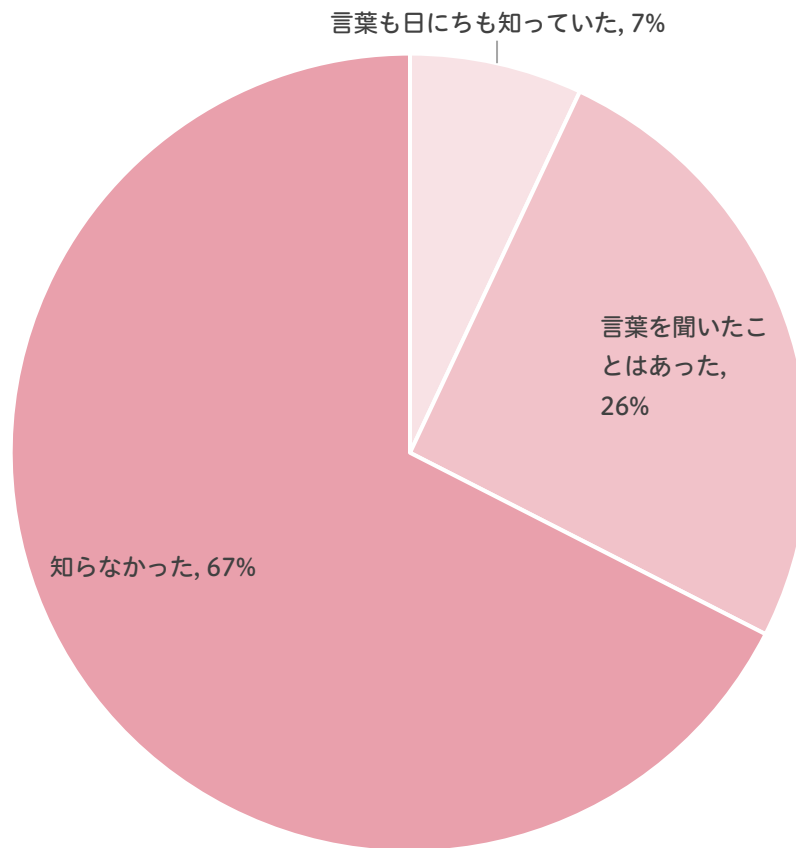
Q8.栃木県は、毎月18日を「とちぎ地産地消の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



**【調査結果の概要】**

「知らなかった」(80%)が最も多く、以下、「言葉を聞いたことはあった」(16%)、「言葉も日にちも知っていた」(4%)などと続いている。

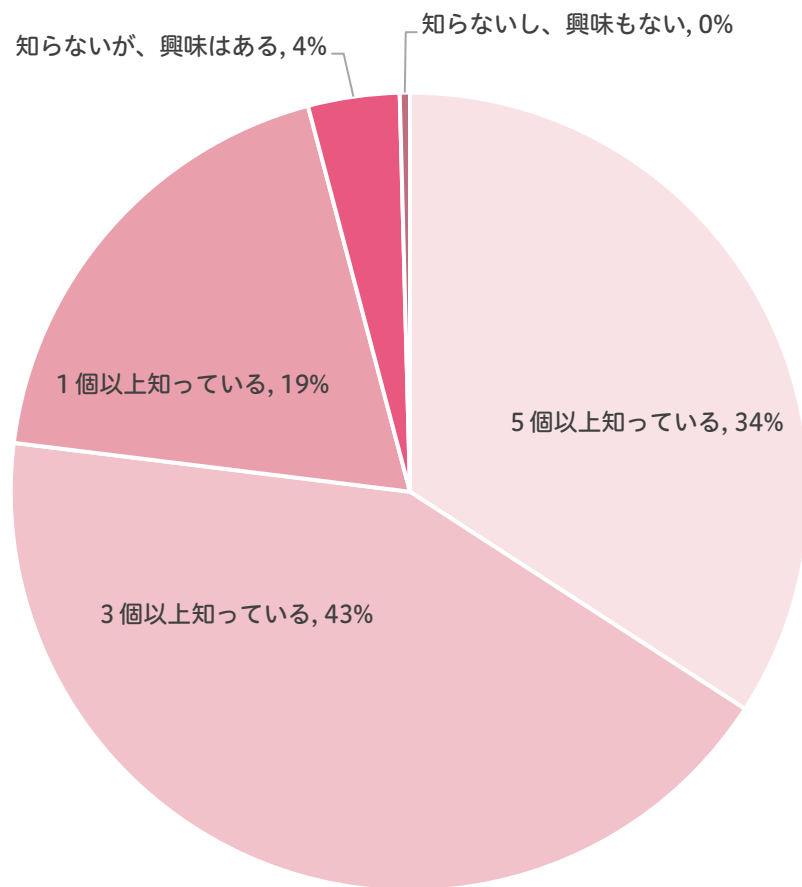
Q9.内閣府は、毎月19日を「食育の日」としています。そのことを知っていましたか。【ひとつだけ選んでください】



**【調査結果の概要】**

「知らなかった」(67%)が最も多く、「言葉を聞いたことはあった」(26%)、「言葉も日にちも知っていた」(7%)と続いている。

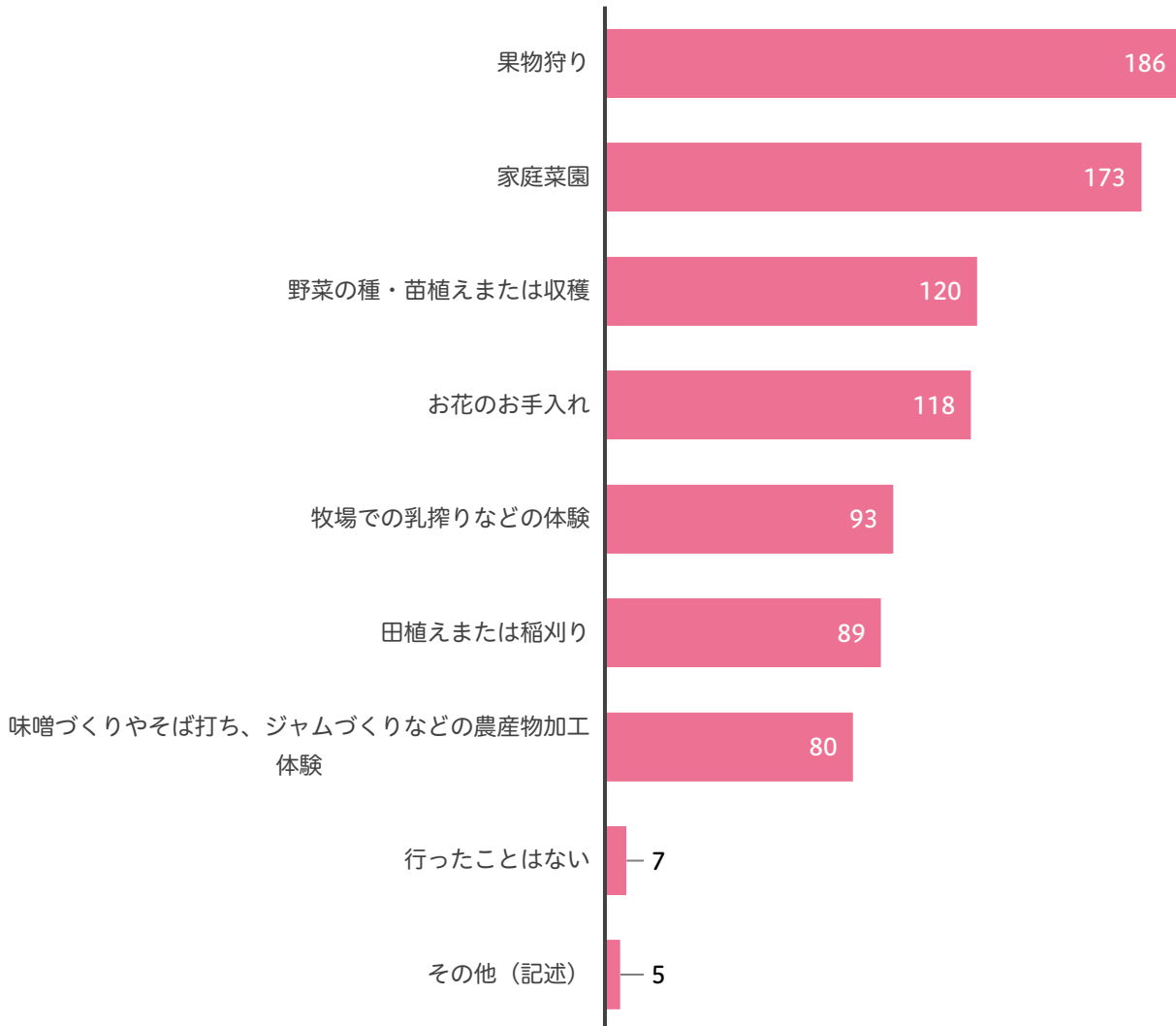
Q10.あなたが住んでいる地域で生産されている、主な農産物をいくつ知っていますか。【ひとつだけ選んでください】



**【調査結果の概要】**

「3個以上知っている」(43%)が最も多く、以下、「5個以上知っている」(34%)、「1個以上知っている」(19%)などと続いている。

Q11.学校以外で、農業についての体験をしたことがありますか。次のうち行ったことがあるものを選んでください。【いくつでも選んでください】



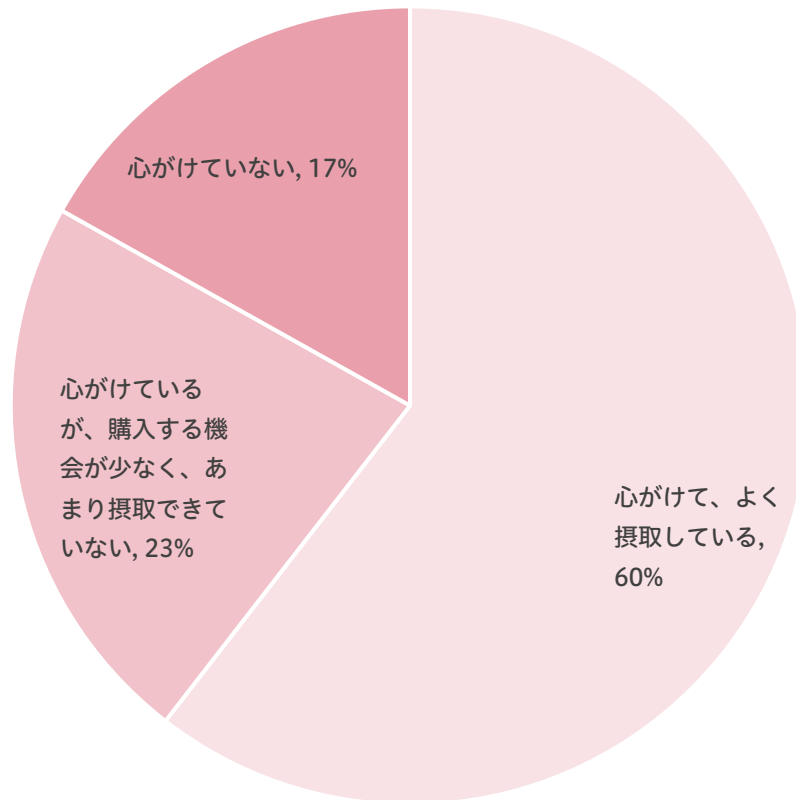
#### 【調査結果の概要】

「果物狩り」(186件)が最も多く、以下、「家庭菜園」(173件)、「野菜の種・苗植えまたは収穫」(120件)などと続いている。

#### 【その他の自由記述】

- ・ 親戚 農業 手伝い
- ・ お味噌だけでなく塩こうじやヨーグルト、ラッキョウ漬けなどを家で作る。できれば子供たちにも手伝ってもらって一緒に作る。
- ・ 農家でパートしている
- ・ 親戚の畑での手伝い

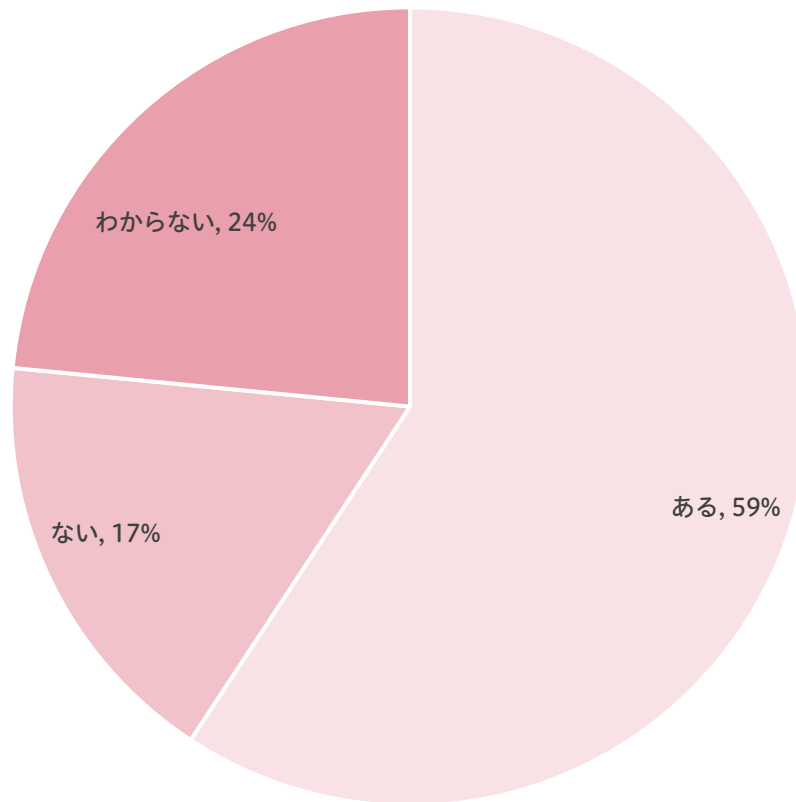
Q12.「日本人は、特に義務教育を終えた年代から、カルシウムの摂取量が足りていない」という調査結果があります。牛乳・乳製品は、カルシウムを効率的に摂取できる食品ですが、あなたは牛乳・乳製品を摂取するように心がけていますか。【ひとつだけ選んでください】



**【調査結果の概要】**

「心がけて、よく摂取している」(60%)が最も多く、以下、「心がけているが、購入する機会が少なく、あまり摂取できていない」(23%)、「心がけていない」(17%)と続いている。

Q13.栃木県では、外国人住民が増えています。外国人住民を理解する上で（あなたが外国人の場合は日本人住民を理解する上で）、難しさを感じる（感じた）ことはありますか。【ひとつだけ選んでください】

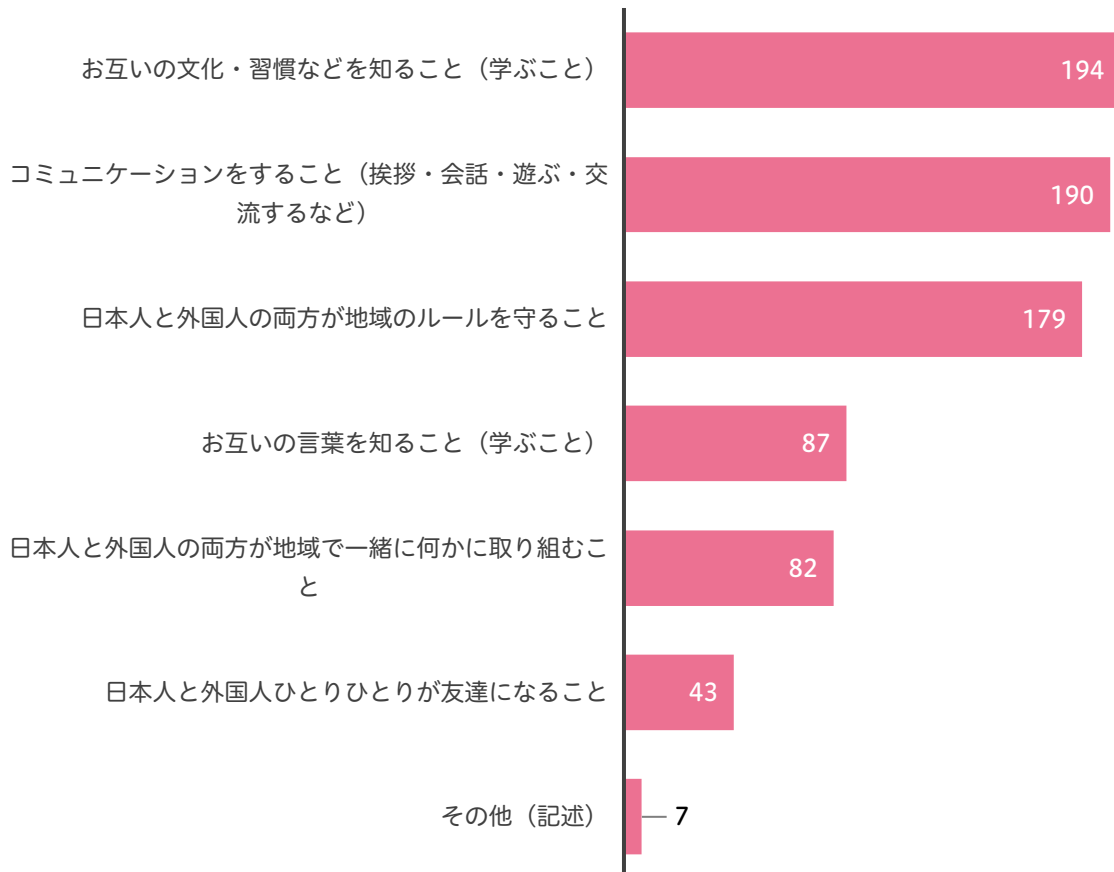


**【調査結果の概要】**

「ある」(59%)が最も多く、以下、「わからない」(24%)、「ない」(17%)と続いている。



**Q14.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、どのようなことが大切だと思いますか。【いくつでも選んでください】**



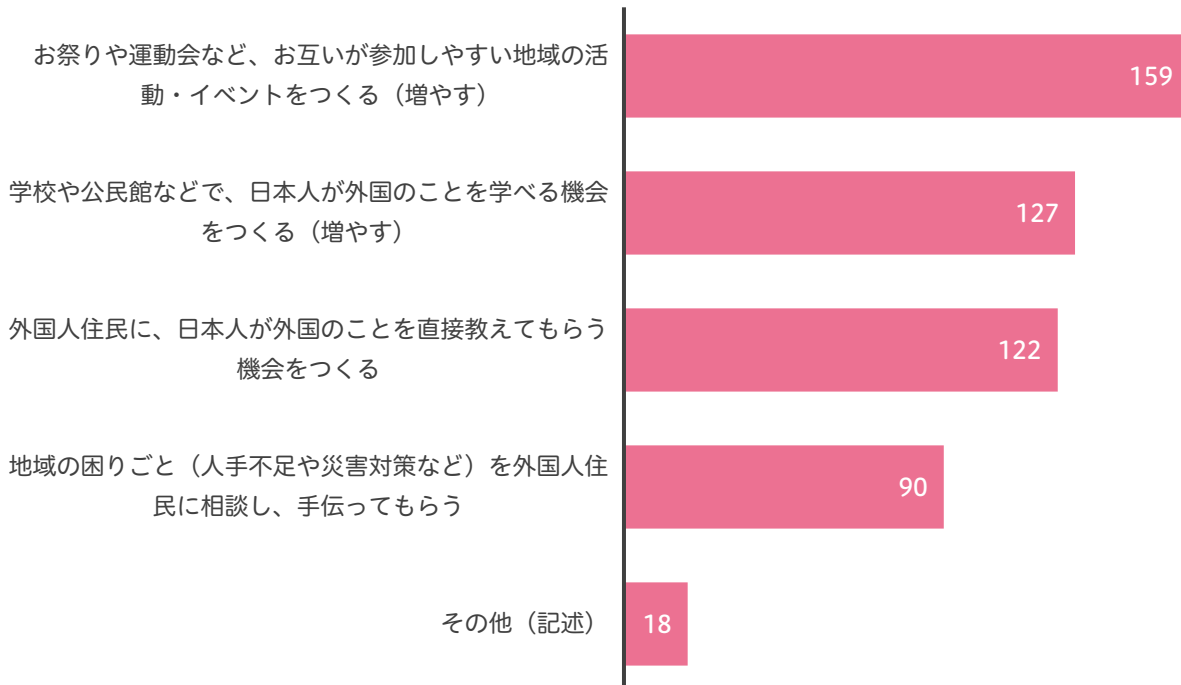
**【調査結果の概要】**

「お互いの文化・習慣などを知ること（学ぶこと）」（194件）が最も多く、以下、「コミュニケーションをすること（挨拶・会話・遊ぶ・交流するなど）」（190件）、「日本人と外国人の両方が地域のルールを守ること」（179件）などと続いている。

**【その他の自由記述】**

- ・ 日本の常識を無条件に外国人に当てはめて判断をしないこと
- ・ ありのままの意見を交換して理解し受けいる
- ・ マナーやしきたりを含めた文化を事前に学ぶこと
- ・ 日本に住む方ばかりを支援しないで、まずは日本人への支援をして欲しいそれでも来る外国人は地域に根差した活動への参加を促して欲しい
- ・ 外国人を増やしすぎないこと

**Q15.日本人住民と外国人住民が、同じ地域で仲良く・助け合って暮らすために、具体的にどのようなことが効果があると思いますか。アイデアを教えてください。【いくつでも選んでください】**



**【調査結果の概要】**

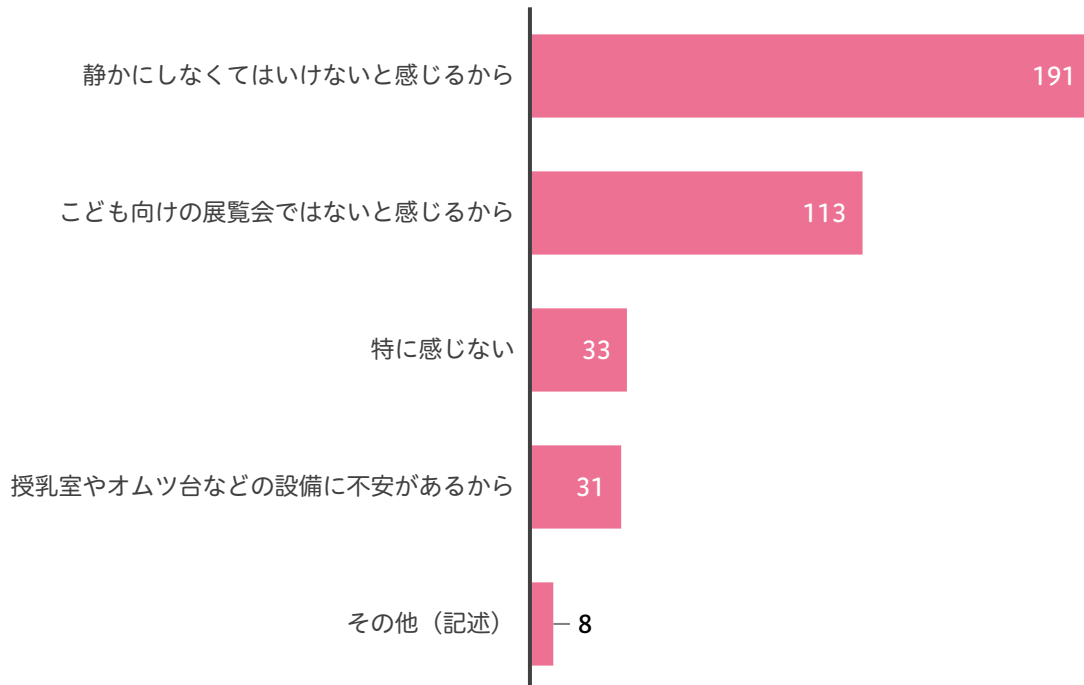
「お祭りや運動会など、お互いが参加しやすい地域の活動・イベントをつくる（増やす）」(159件)が最も多く、以下、「学校や公民館などで、日本人が外国のことを学べる機会をつくる（増やす）」(127件)、「外国人住民に、日本人が外国のことを直接教えてもらう機会をつくる」(122件)などと続いている。

**【その他の自由記述】**

- ・ 外国人住民が日本・地域のルールや考え方を学ぶ機会をつくる
- ・ 学校や公民館などで、外国人が日本のことを学べる機会をつくる（増やす）日本人住民に、外国人が日本のことを直接教えてもらう機会をつくる
- ・ 外国の方が困っていることを無料で相談できる機会（例:土曜日に公民館で外国の子どもたちの学習支援を行う）を設ける。
- ・ 外国人住民が地域のルールや習慣を学べる環境を整備する
- ・ なぜその土地を選んだのかアピールしてもらう事で受け入れる側も魅力や活力を再認識できる
- ・ 年代別に取り組むことが違うので年代別にわけて地域に取り組ませた方が良いと思う。学生、育児など
- ・ 外国人住民が地域のルールや日本の習慣を積極的に学べる機会を設けてほしい。
- ・ 市役所等に、外国人も日本人もなんでも相談できる窓口を設置する。日常に起きている対立や困りごとを市や県が把握できるきっかけとなるのではないだろうか。
- ・ 外国人に日本のルールやしきたりを教える場をもうけてほしい運転マナー（赤信号で待つべきなのに、タラタラ停止線を 2m も超えてなかなかきちんと停止しない）が悪く怖い子供達に近づくなと躰けてしまう所以は外国人側にあると思う
- ・ 市役所が発信となって、格安の外国語講座(子供から大人)があると良い。外人さんとの交流の場があったら良い（友達が欲しい）

- ・ 覚悟をもって移住されてきたと思うので、外国の方が日本の文化やマナーをしっかりと守る方が大切だと思う。
- ・ 外国人が日本のルールを守るように勉強してもらう
- ・ まず、偏見をなくすこと。お互いが協力的だと知ってもらうこと。
- ・ 外国人は日本に入れるべきではないと思います。
- ・ 自治会に必ず参加(年会費や、地域の行事手伝い、ゴミ当番など)日本語の習得
- ・ 日本人が外国の風習を学ぶ前に、まずは外国人が日本で暮らすなら日本に合わせて欲しい。
- ・ 全年齢ともに、英語を学ぶ機会や場所を増やし、まずはコミュニケーションがとれるよう言葉の壁がなくなるといいなと思います

Q16.子どもと一緒に美術館を訪れるときに、心理的なハードルを感じることはありますか。また、感じる場合、どのようなものがハードルとなりますか。【いくつでも選んでください】



#### 【調査結果の概要】

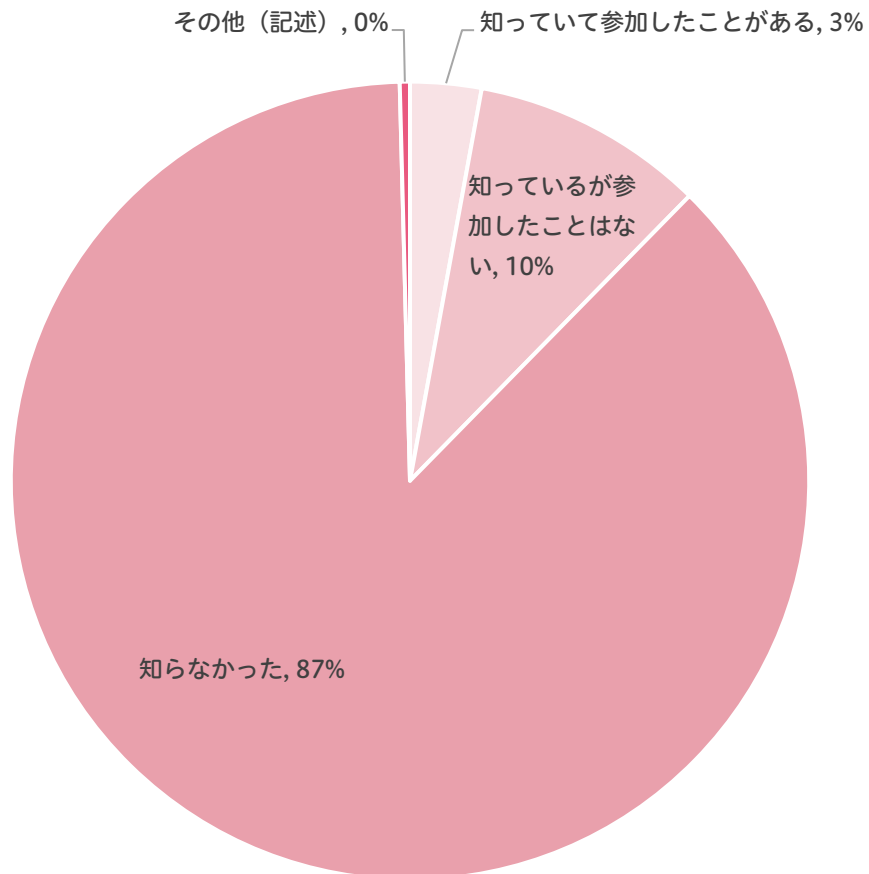
「静かにしなくてはいけないと感じるから」(191 件)が最も多く、以下、「子ども向けの展覧会ではないと感じるから」(113 件)、「特に感じない」(33 件)などと続いている。

#### 【その他の自由記述】

- ・ 展示物に触れたり、親とはぐれたりしないか注意していないといけないから。
- ・ 自信が芸術に疎く、子どもたちにつまらなさそうにされるのも困るから。
- ・ 美術館での過ごし方を身につけられるまで、そのような場所には子どもを連れていきません。
- ・ 展示物に触れてしまいそう、入ってはいけないところに入ってしまいそう。ベビーカーで周ることができるか分からない。(できなかった場合大きな荷物になる)
- ・ 行ったことも、行こうとも思ったこともないのでわからない
- ・ 意味が分かりません
- ・ 子供の事を考えてしまい、集中して楽しむことができない。
- ・ 子連れを非難する人たちの存在（例として、他者の目を気にして必要以上に子供を叱ってみせたり、非難を和らげるためにパフォーマンスとして子供を嗜めて見せる、など。

Q17.栃木県立美術館で、こども向けワークショップ「アートラウンジさくら塾」や、こどもと一緒に観覧することを歓迎するイベント「ママパパ鑑賞応援デー」などを開催していることを知っていましたか。

【ひとつだけ選んでください】



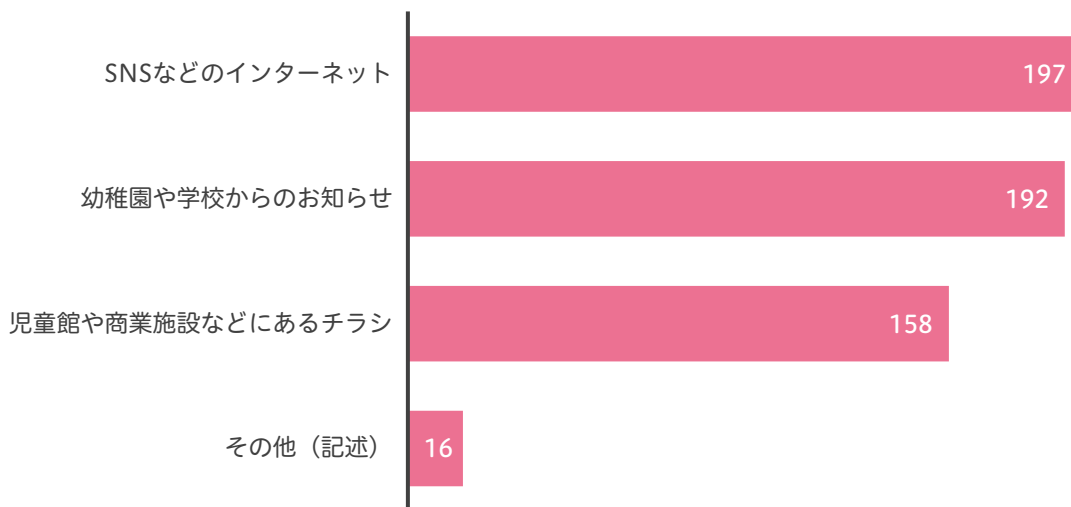
【調査結果の概要】

「知らなかった」(87%)が最も多く、以下、「知っているが参加したことはない(10%)、「知っていて参加したことがある」(3%)などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 申し込んでいて参加予定

**Q18.こどもと一緒に参加するイベントなどの情報収集は、どのような媒体で行っていますか。【いくつでも選んでください】**



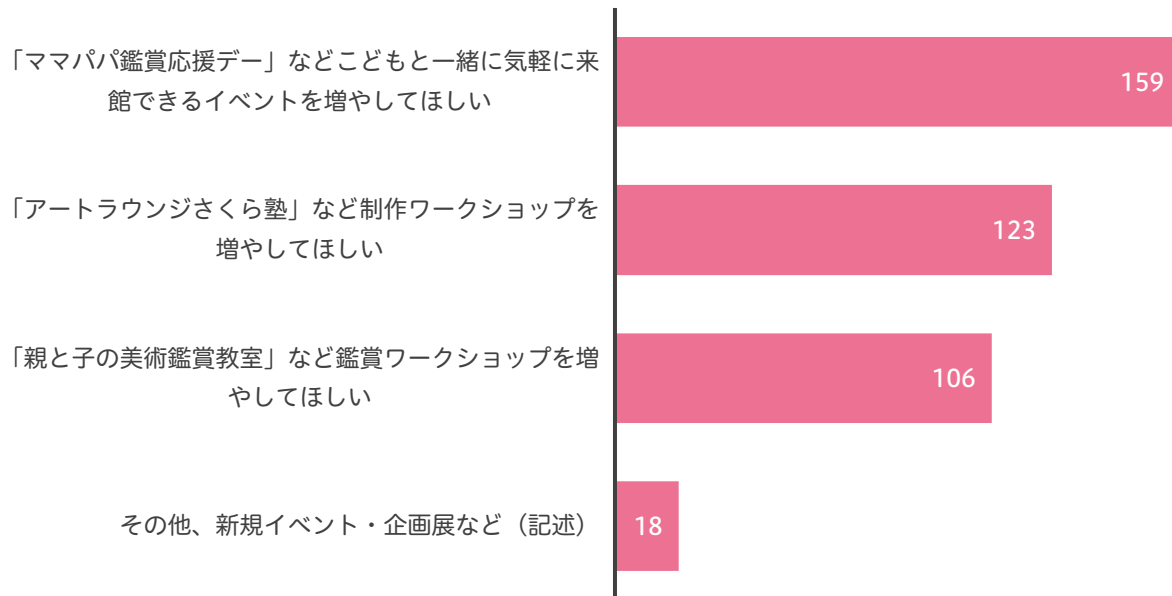
**【調査結果の概要】**

「SNS などのインターネット」(197 件)が最も多く、以下、「幼稚園や学校からのお知らせ」(192 件)、「児童館や商業施設などにあるチラシ」(158 件)などと続いている。

**【その他の自由記述】**

- ・ 家内がアンテナが高いので大体教えてくれるか参加を押し付けてくる
- ・ 学校からの配布されるおたより
- ・ 下野新聞, ラジオレディオベリーからの情報
- ・ 県や地域の公式ページをみたり、図書館配布の案内をみたりして探している
- ・ 広報
- ・ もんみやなどの雑誌
- ・ 市が発行している冊子など
- ・ 新聞 ラジオ
- ・ ママ友からの口コミや LINE などでの転送
- ・ 親が取っている新聞や折り込みチラシ、フリーペーパー。
- ・ ママ友の口コミ
- ・ 自治会の回覧や配布物
- ・ 新聞広告商工会議所
- ・ 広報うつのみや
- ・ 市の広報誌
- ・ 宇都宮市の広報誌
- ・ 知人から教えてもらう。

## Q19.今後、栃木県立美術館で開催してほしい子ども向けのイベントや企画展などをお聞かせください。【いくつでも選んでください】



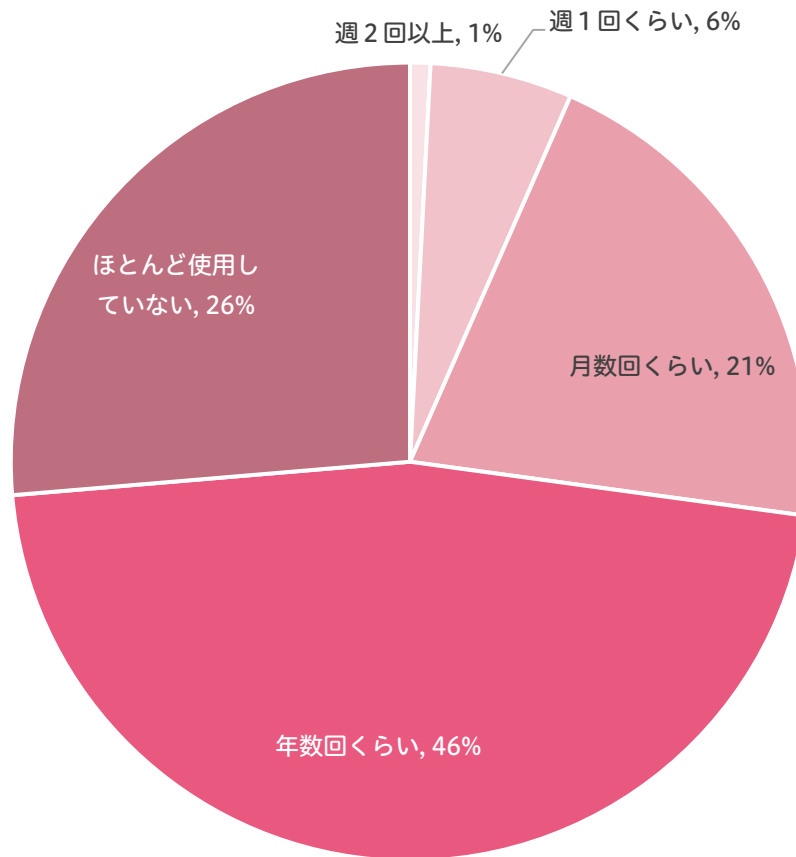
### 【調査結果の概要】

「「ママパパ鑑賞応援デー」など子どもと一緒に気軽に来館できるイベントを増やしてほしい」(159件)が最も多く、以下、「「アトラウンジさくら塾」など制作ワークショップを増やしてほしい」(123件)、「「親と子の美術鑑賞教室」など鑑賞ワークショップを増やしてほしい」(106件)などと続いている。

### 【その他の自由記述】

- ・ 中学生、高校生を対象とした親目線ではなく本人が興味を持って参加できるワークショップやイベント
- ・ 絵本作家さんの作品など、子どもが身近に感じる展示をしてほしい。
- ・ アトラウンジさくら塾は興味があって、子どもと参加したいと考えていた時期がありました。下の子どもが小さく、一緒に参加できないので、託児や平日開催なども検討してほしいです。
- ・ 託児付きでゆっくり見て回れると嬉しい。
- ・ 立体作品の作製
- ・ 宇都宮美術館で開催された「ヨシタケシンスケ展」のような、おとなも子どもも楽しめる展示
- ・ ワorkshop等で、美術館が身近な場所になると良い。難しく考えず、芸術が分からなくてもルールを守って気楽に行ける場所になると良い。
- ・ 出張ワークショップの開催。なかなか美術館まだ行けないので。
- ・ 知らなかったので開催されているものを実際に見てから回答したいです
- ・ 遠いので、距離があると参加しづらいです。各地域の公民館で出張講座をしてほしい。
- ・ お絵描きワークショップクレヨン、絵の具、筆の使い方やテクニック
- ・ 希少だけど触れる物を展示して欲しい
- ・ 絵本作家の展示会は行きやすい。五味太郎さんや、かがくいひろしさんなどの乳幼児向けの絵本を多く手がける作家さんの企画展には足を運びたい。
- ・ 子供も大人も知っている美術の展示会企画（出かけたくなるような美術の展示）
- ・ 絵本作家さんなどの交流会もかねた展示会画家さんによるワークショップや、なぜ画家になろうとしたかの座談会など

Q20.「とちぎ笑顔つぎつぎカード（子育て支援パスポート）」を、どれくらいの頻度で使用していますか。【ひとつだけ選んでください】

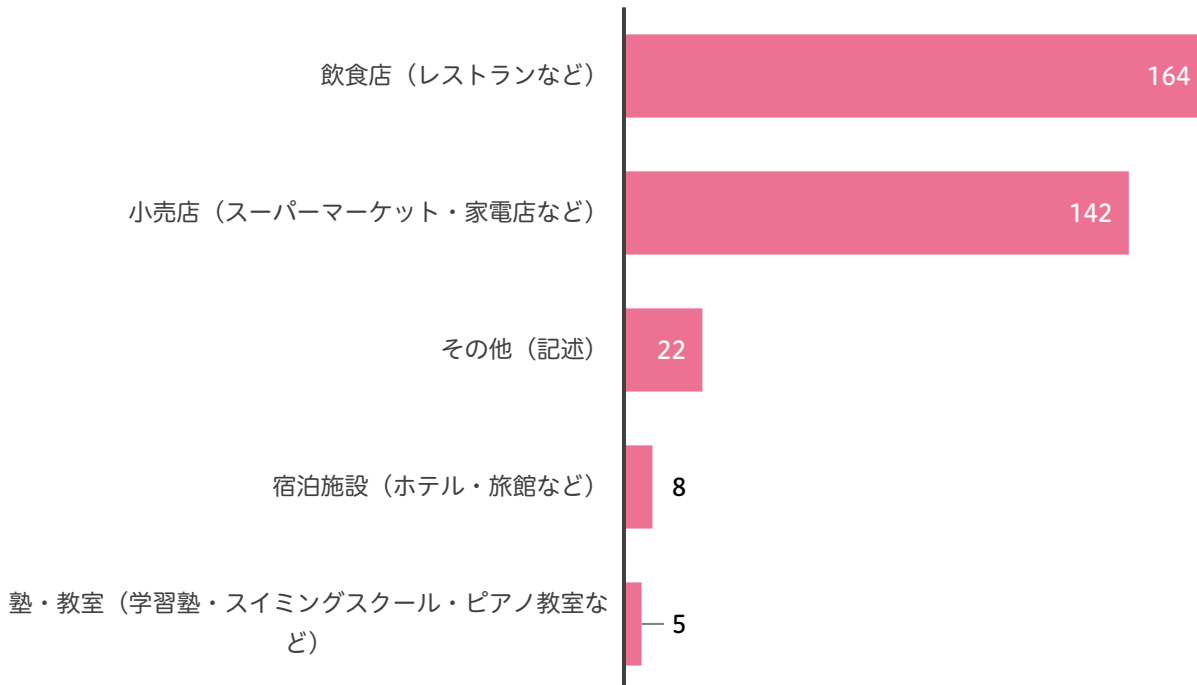


**【調査結果の概要】**

「年数回くらい」(46%)が最も多く、以下、「ほとんど使用していない」(26%)、「月数回くらい」(21%)などと続いている。



Q21.「とちぎ笑顔つぎつぎカード（子育て支援パスポート）」を、主にどのような業種の店舗で使用していますか。  
【いくつでも選んでください】



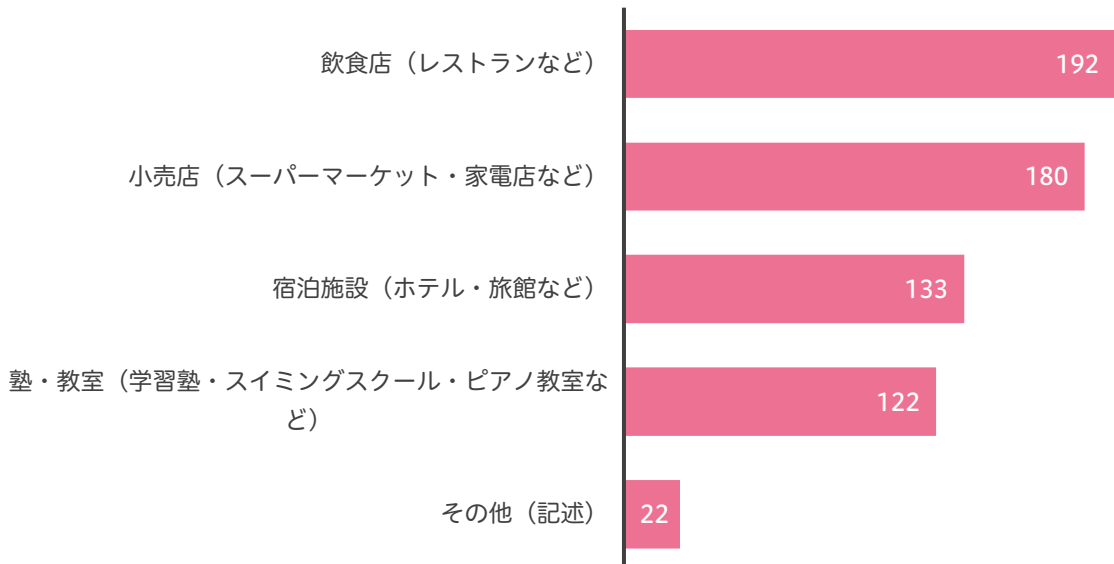
#### 【調査結果の概要】

「飲食店（レストランなど）」(164件)が最も多く、以下、「小売店（スーパーマーケット・家電店など）」(142件)、「その他」(22件)などと続いている。

#### 【その他の自由記述】

- ・ 道の駅ろまんちっく村の温泉施設
- ・ 日帰り温泉
- ・ ガソリンスタンド 4件
- ・ 使用したことがない 使っていない など 5件
- ・ ほとんど利用していない
- ・ 県外の施設
- ・ どこで使えるか分からない
- ・ クリーニング屋
- ・ テーマパーク
- ・ 娯楽施設
- ・ 存在を知らなかった移住してきた時、市からの説明案内がなかった
- ・ どこで使えるのかわかりにくく、調べにくくて使えない。
- ・ 使っても意味無いところがチラホラ。
- ・ あまり魅力的な特典がなく使用していない
- ・ 県外の水族館

**Q22.今後、「とちぎ笑顔つぎつぎカード（子育て支援パスポート）」の協賛店として、増えるとうれしい業種を教えてください。【いくつでも選んでください】**



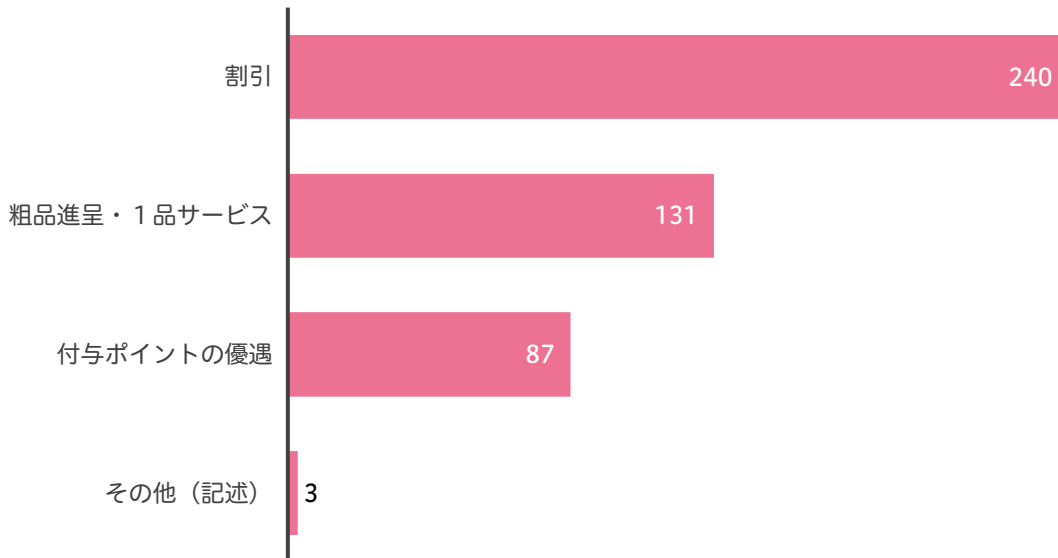
**【調査結果の概要】**

「飲食店（レストランなど）」（192件）が最も多く、以下、「小売店（スーパーマーケット・家電店など）」（180件）、「宿泊施設（ホテル・旅館など）」（133件）などと続いている。

**【その他の自由記述】**

- ・ レジャー施設 2件
- ・ 博物館やこどもの遊び場
- ・ 協賛店でも、対象となる金額条件や曜日指定などがある為、実際には使えてないことが多い。
- ・ コストコ、りんどうこなどのレジャー施設
- ・ 美術館、文化会館などの施設
- ・ ガソリンスタンド
- ・ 商業施設
- ・ テーマパークや映画、交通機関
- ・ 学用品を購入できる本屋さんや体操着や制服を購入する地元の小売店で特典があると嬉しいです。
- ・ プール
- ・ 宇都宮動物園やおもちゃ博物館や中川水遊園や那須どうぶつ王国や那須ハイランドパーク等のアミューズメント施設。
- ・ 娯楽施設
- ・ チェーン店ばかりでなく個人店イベントなどスマホ対応にすると広がる可能性がある
- ・ 衣料品店
- ・ 観光施設。休日など、遊び場などの割引があるのが1番嬉しい。あとは、ガソリンスタンドの値引きやスタンプ増。地域柄車移動が多いのでありがたい。
- ・ とちのきファミリーランド
- ・ 子供服
- ・ プールや、遊園地、映画館、カラオケなどの遊べる施設
- ・ 写真撮影
- ・ コンビニ

Q23.「とちぎ笑顔つぎつぎカード（子育て支援パスポート）」の特典・サービスとして、あるとうれしい内容を教えてください。  
【いくつでも選んでください】



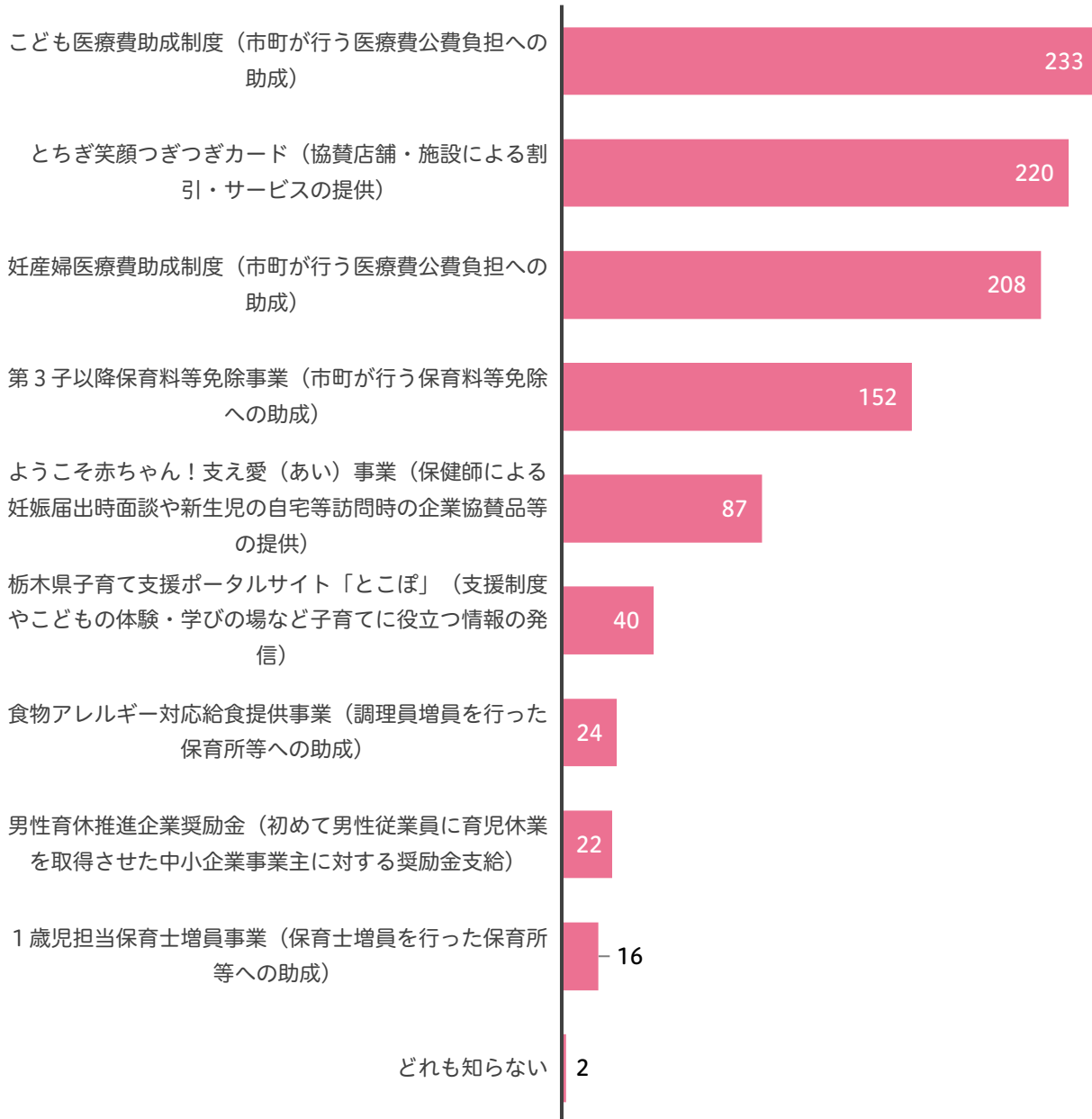
【調査結果の概要】

「割引」（240件）が最も多く、以下、「粗品進呈・1品サービス」（131件）、「付与ポイントの優遇」（87件）などと続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 協賛店がわかりにくくて利用しづらいです。
- ・ 体験 lesson
- ・ 割引率や回数をあげるなど、内容を見直してほしい。
- ・ 使える店がよくわからないので、（覚えてもらえない）使える店はレジなどで使えることをアピールしてもらえるとありがたい。（お店によっては使えます！とか、得点を書かれたポップやシールが貼ってある）
- ・ 子ども向けのプレゼントや記念品。

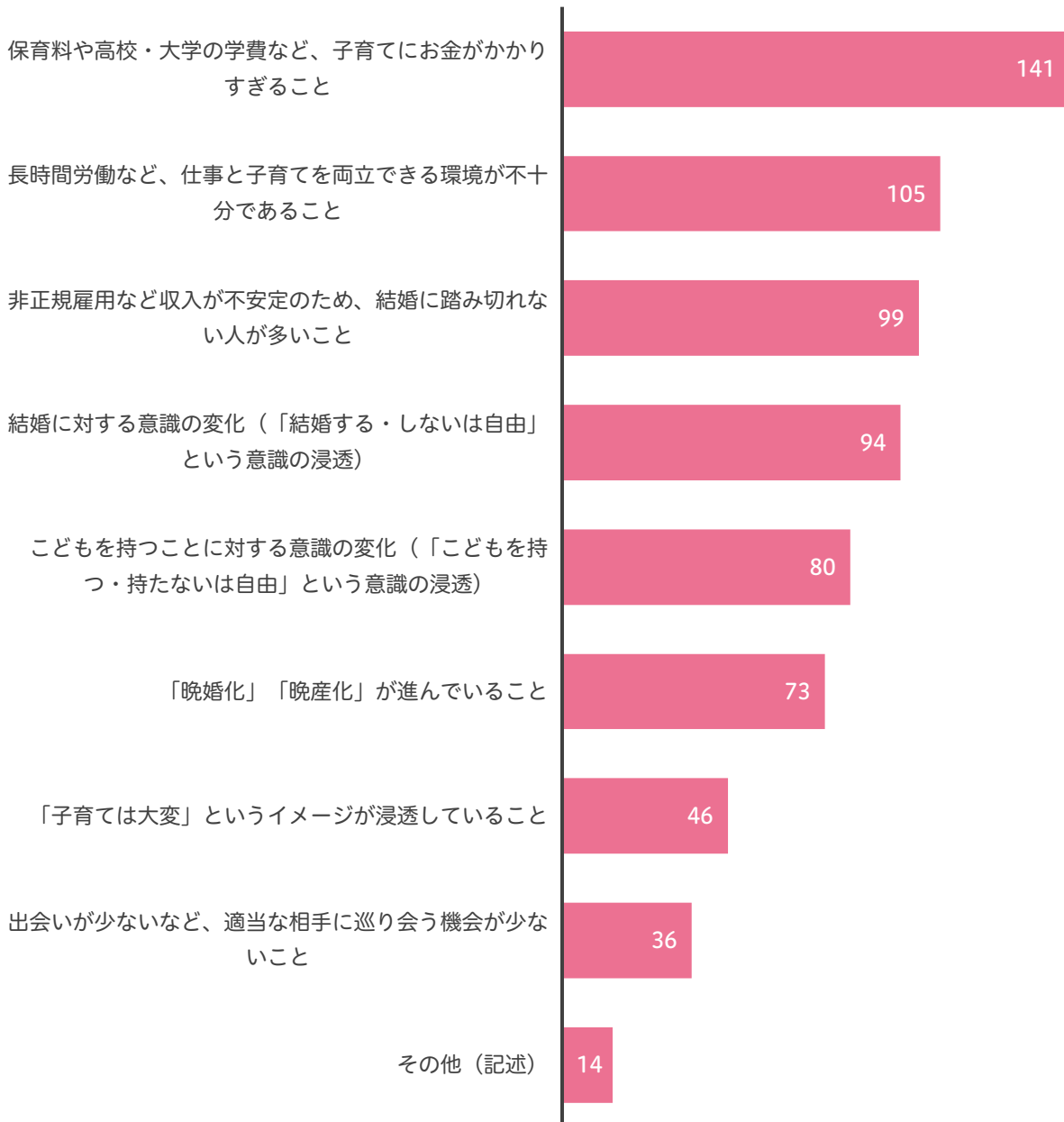
**Q24.栃木県が実施している、妊娠、出産・子育て期における「こども施策」（主に県が自らの判断で実施しているもの）について、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】**



**【調査結果の概要】**

「こども医療費助成制度（市町が行う医療費公費負担への助成制度）」（233件）が最も多く、以下、「とちぎ笑顔つぎつぎカード（協賛店舗・施設による割引・サービスの提供）」（220件）、「妊産婦医療費助成制度（市町が行う医療費公費負担への助成制度）」（208件）などと続いている。

**Q25.現在、日本においても、栃木県においても、少子化が進行しています。その主な原因は、どこにあると思いますか。  
【3つまで選んでください】**



**【調査結果の概要】**

「保育料や高校・大学の学費など、子育てにお金がかかりすぎる」(141件)が最も多く、以下、「長時間労働など、仕事と子育てを両立できる環境が不十分である」(105件)、「非正規雇用など収入が不安定のため、結婚に踏み切れない人が多い」(99件)などと続いている。

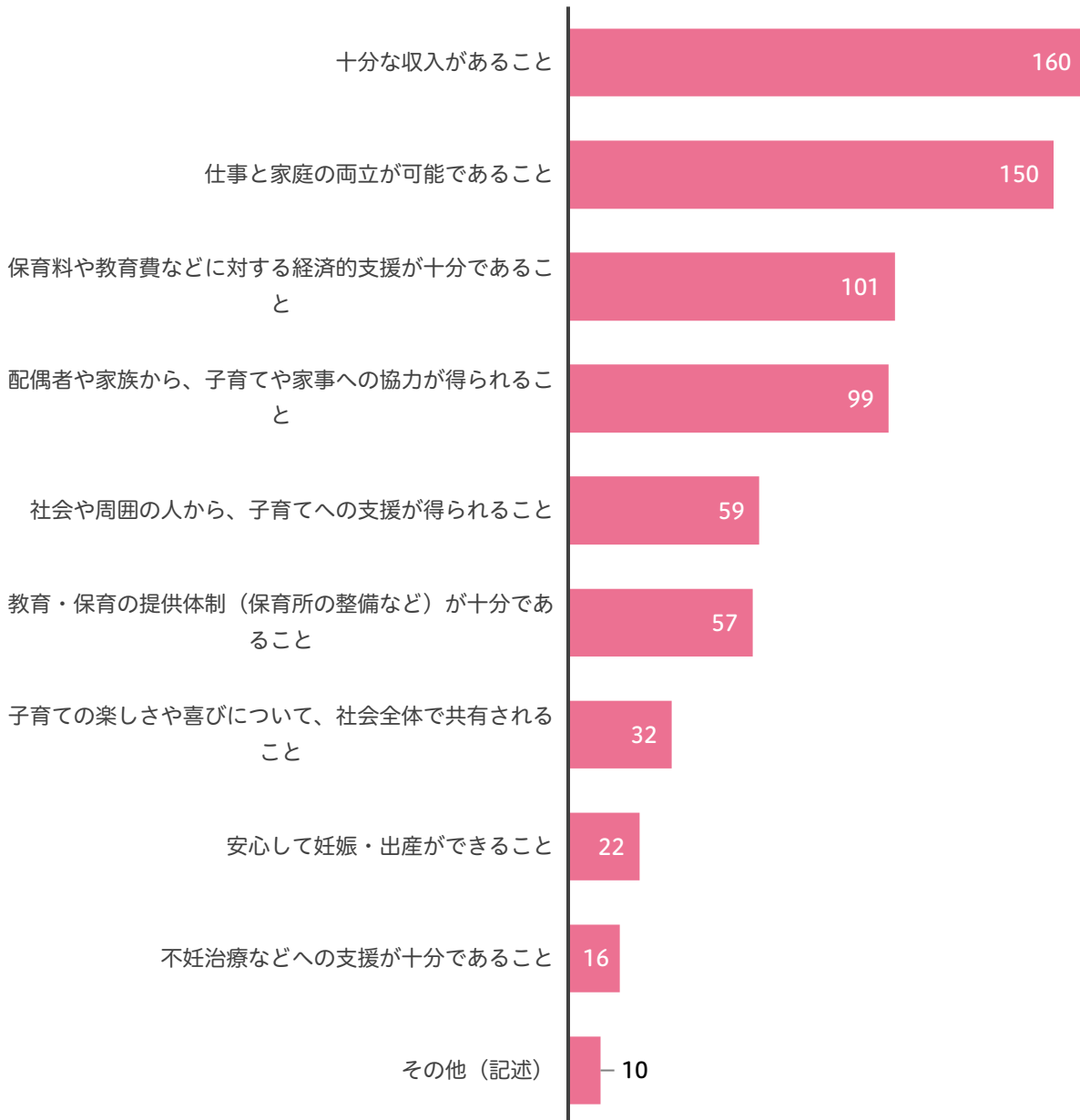
**【その他の自由記述】**

- 定期的な収入があっても、賃金が低い、税金が高いなどで所得が低く、家族を持つことに不安があると思う

- ・ 税負担が大きい
- ・ 父親が育児に参加できていない家庭が多いように思う。家事、育児、仕事と、負担が母親に偏るため、第二子、第三子にはなかなか踏み切れないのではないかと思う。
- ・ 少子化の原因についてはないのですが、この案を提案させてください。大学を四年制から 3 年制にすると良いと思います。メリットは多々ありますが長文入力不可でした。
- ・ 税金などが高く収入が増えても手取りが増えないため。
- ・ 政治に度々裏切られる。子育て罰という言葉が生まれるくらい子育て世代への厳しい世の中のせい。子育て世代への理解があまりにも乏しい。
- ・ コロナ禍で子どもを預ける事ができず、仕事もしなくてはならなかった時、これ以上子どもを持つ事は難しいと感じました。
- ・ 子どもを育てるのにはとてもお金がかかるから。県立高校や私立高校の助成にしても年収で限られてしまい、必要な援助がいただけない為、自分達で貯蓄をしなければならない。
- ・ ペットブーム…子供を育てるより、犬ねこの方がお手軽
- ・ 上の項目、全部。書きたいことはたくさんあるけど、文字制限されて解答に書ききれません。何度もエラーになりました。
- ・ お金をかける必要があるところは子どもを最優先に考えていないことが問題だと思います。この政策を決める人たちが優先することは子どもたちのことではありません。子どもが減っているのは食事のことや間違った健康情報、間違った医療機関への頼り方にあると思われれます。
- ・ 育児休暇中に発生する収入減少期間や無給期間などに不安を持ちやすい。具体的なお金の支出など、マネープランが分からないのが不安だったので事前に予想が場ができるといいと思う。
- ・ 昨今の物価高に見合っていない賃金の中で子供を産んで育てて行こうと思えないから。子供が贅沢品になっている。
- ・ 不妊体質の人が増えたこと。授かりにくい。

Q26.国の調査では、「『夫婦が実際に予定するこどもの数』は、『理想とするこどもの数』を下回る」との結果が出ています。どうしたら、理想とするこどもの数を持てる人が増えると思いますか。

【3つまで選んでください】



#### 【調査結果の概要】

「十分な収入があること」(160件)が最も多く、以下、「仕事と家庭の両立が可能であること」(150件)、「保育料や教育費などに対する経済的支援が十分であること」(101件)などと続いている。

#### 【その他の自由記述】

- 将来の子育てに不安を残さないように経済が成長する事、成長させなかった(氷河期を作って人口ボーナスを消滅させた)事に対し、政府と官僚及び当時の有権者に一定のペナルティを与え、それを財源に子育て支援の施策を打つ事。

- ・ 義務教育後の金銭的な不安が軽減されること
- ・ 子どもがいない人が子どもと触れ合う、知り合う機会が増える。会社が休みやすい環境。
- ・ シンガポールでは子連れでいるとあたたかく迎え入れてくれます。タクシーでも子連れ妊婦優先ゾーン。子連れは大変というのは認識出来ていると思うので子育てしやすい子連れ優先出来る県アピールすると旅行なども増えると思います。
- ・ 本当はもっと子どもが欲しいですが、共働きとしては2人が限界ではと思います。預け先が足りないと感じています。
- ・ 会社の制度で、子育てしやすい環境づくり
- ・ 上の項目、全部です。
- ・ 地域で育てるということ年長者の活躍の場を子育てにもっていくこと不妊にいたる原因となるものを排除していくことプラスチック、農薬、予防接種、添加物、不潔とされるものの概念、食品など身体に入るもの、使用できる材料を制限すること
- ・ 子どもの扶養控除が無いのは絶望的。夫婦という形にとらわれず、シングルでも安心して子育てできるようにすれば子は増えると思う。教育にお金がかかりすぎるので所得制限なしの補助をした方がよい。
- ・ 夫が定時に帰り、帰宅後は共に家事育児をするまた人なみに楽しむ時間がないと自己犠牲を意識しやすく子らに優しくできないので、より気軽に託児できると良いまた子の発熱時に母の仕事早退ありき、というのは屈辱感というか不満が強く、そうせずつむ病児保育があれば。